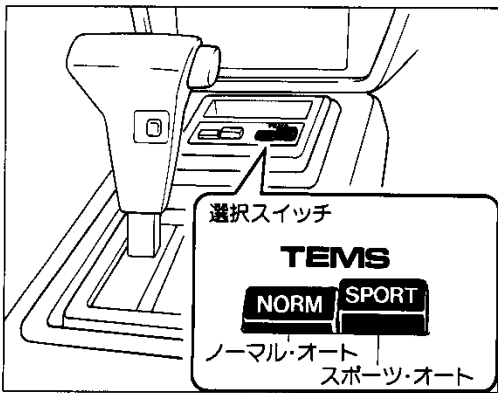


# 特別装備の使い方

- 電子制御サスペンション(TEMS) .....83
- PPS(操舵力可変式速度感応型パワー・ステアリング).....84
- オート・ドライブ(自動定速走行装置).....85
- スーパー・モニタリング・ディスプレイ(走行情報表示装置).....88
- 4輪ESC(4輪すべり制御装置).....94
- クイック・ハンド・ウォーマー(手元暖房装置).....94



## 電子制御サスペンション(TEMS)

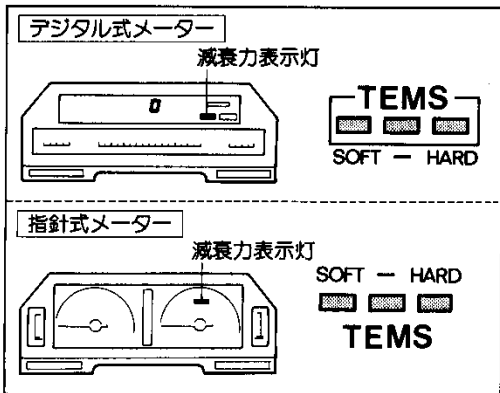
グランデ(ツインカム24)




運転条件に応じてショック・アブソーバーの減衰力を3段階に選択できる機能を持たせ、操縦性、乗り心地の向上をはかったものです。

### ■使い方

選択スイッチでショック・アブソーバーの減衰力を、ノーマル・オート (NORMAL AUTO)、スポーツ・オート (SPORT AUTO)、に選択できます。選択方法は、次ページの〈減衰力パターンの選択の目安〉を参照してください。

### ■減衰力表示灯の見方



-  ..... 軟らかめ(ソフト)
-  ..... 中間(ミディアム)
-  ..... 硬め(ハード)

特別装備の使い方

＜減衰力パターンの選択の目安＞

減衰力パターン	選択スイッチ	減衰力表示灯※	使用状態
ノーマル・オート (NORMAL AUTO)		 軟らかめ  中間  硬め	1.通常走行時はこの位置で使用します。 2.下記のように運転条件に応じて自動的に減衰力が切り替わります。 ●通常走行時には軟らかめの減衰力になり快適な走行が行えます。 ●高速走行時には中間の減衰力になり操縦性をより向上させます。 ●カーブ走行時や急発進時および高速からのブレーキ時には、硬めの減衰力になり車両姿勢の変化を少なくし、操縦性を向上させます。 ●オートマチック・トランスミッション車では、チェンジ・レバーが●または●のとき硬めの減衰力になり、チェンジ・レバーを操作したときの車両姿勢の変化を少なくします。
スポーツ・オート (SPORT AUTO)		 軟らかめ  中間  硬め	1.スポーツ走行に適します。 2.下記のように運転条件に応じて自動的に減衰力が切り替わります。 ●通常走行および高速走行時には少し硬めの減衰力になり操縦性をより向上させます。 ●カーブ走行時や急発進時および高速からのブレーキ時には、硬めの減衰力になり車両姿勢の変化を少なくし、操縦性を向上させます。 ●オートマチック・トランスミッション車では、チェンジ・レバーが●または●のとき硬めの減衰力になり、チェンジ・レバーを操作したときの車両姿勢の変化を少なくします。

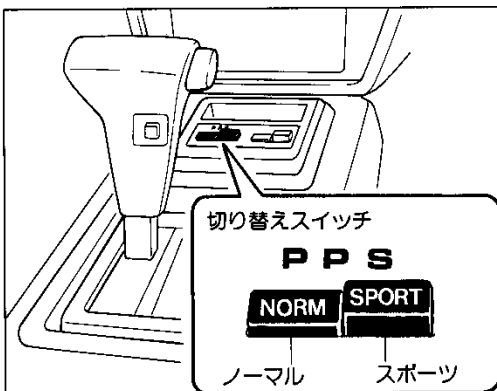
※走行状態に応じてショック・アブソーバーの減衰力が切り替わるたびごとに、減衰力表示灯の点灯数が変わります。また、エンジン・スイッチをONにすると約2秒間点灯します。

PPS(操舵力可変式速度感応型パワー・ステアリング)

グランデ(ツインカム24)

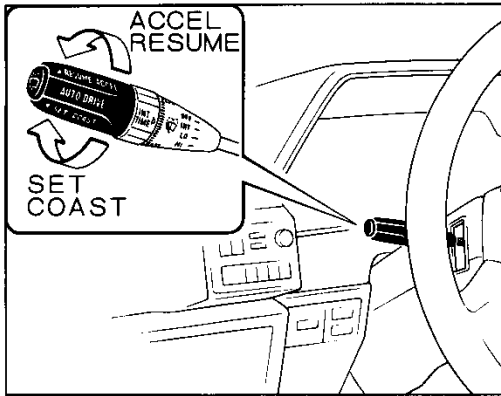
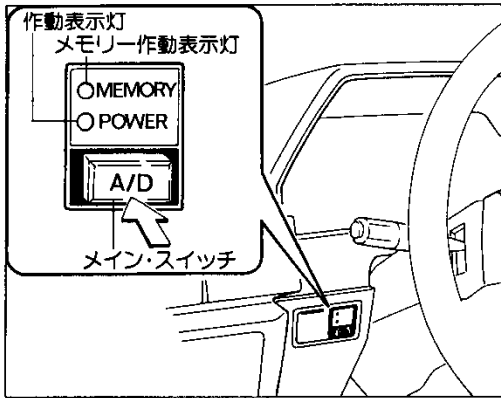
運転条件に応じてパワー・ステアリング(ハンドル操作力軽減装置)の効きをノーマル(NORMAL)、スポーツ(SPORT)に切り替えることができます。切り替え方法は、次の＜ハンドル操作力切り替えの目安＞を参照してください。

特別装備の使い方



＜ハンドル操作力切り替えの目安＞

選択パターン	切り替えスイッチ	使用状態
ノーマル		車速が高くなるにつれてハンドル操作力が適度な重さになり、通常走行時に適しています。
スポーツ		車速またはエンジン回転が高くなるにつれてハンドル操作力が適度な重さになり、カーブの多い道路を走行するのに適しています。



## オート・ドライブ(自動定速走行装置)

### 注文装備

オート・ドライブは、アクセル・ペダルを踏まなくても約40~100 km/hの任意の速度で車速を一定に保つことができる装置です。

### ■メイン・スイッチ

1. メイン・スイッチを押すとONになり、作動表示灯が点灯して作動待機状態になります。もう一度押すとOFFになり、作動表示灯が消灯します。
2. オート・ドライブが記憶車速を保持しているときは、メモリー作動表示灯が点灯します。



エンジンを停止すると自動的にオート・ドライブのメイン・スイッチがOFFになります。オート・ドライブを使用するときは、もう一度メイン・スイッチを押してください。

### ■コントロール・スイッチ

- ACCEL ..... オート・ドライブ走行速度を増速できます。
- RESUME ..... 一度オート・ドライブを解除したとき、車速が約40km/h以上であれば解除前の設定速度に復帰させることができます。
- SET ..... オート・ドライブをセットするときに使用します。
- COAST ..... オート・ドライブ走行速度を減速できます。

## 希望速度にセットするとき

操作手順		
1	メイン・スイッチをONにする	
2	希望速度まで加速する	
3	コントロール・スイッチをSET側に回す	
4	コントロール・スイッチから手を離す	

※約40~100km/hの範囲内で使用できます。



注意!

1. オート・ドライブ走行時、急な上り坂になると走行車速は設定車速より低下することがあります。(オートマチック・トランスミッション車の場合、車速が約4km/h以上低下すると自動的にオーバードライブは解除され、車速が設定車速の約2km/h手前になると再びオーバードライブが作動します。)
2. 急な下り坂になると走行車速は設定車速より超過することがあります。マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション車の場合には5速を4速に、オートマチック・トランスミッション車の場合にはオーバードライブ・スイッチをOFFにするなどとして、エンジン・ブレーキを併用してください。

オート・ドライブ(自動定速走行装置)

オート・ドライブ走行中に増速したいとき

▶設定速度を増速したいとき

●コントロール・スイッチで

操作手順	
1	ACCEL側に回し続ける 
2	希望速度になったらコントロール・スイッチから手を離す


急な坂道では、ACCEL側に回しても増速できないことがあります。増速できないときは、アクセル・ペダルを使ってください。



ちよつと一言

オートマチック・トランスミッション車の場合は、1の操作をしたときに自動的にオーバードライブが解除され、増速が終了すれば再びオーバードライブ走行となります。

●アクセル・ペダルで

操作手順	
1	アクセル・ペダルを踏み込み、希望車速まで加速する
2	コントロール・スイッチをSET側に回す 

※約100km/h以上では作動しません。

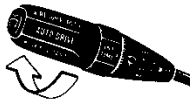
▶一時的に増速したいときは

- 1.アクセル・ペダルを踏み込みます。
- 2.アクセル・ペダルを離せば、設定速度まで自動的にもどり、その後定速走行を維持します。

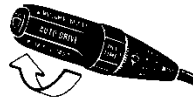
オート・ドライブ走行中に減速したいとき

▶設定速度を減速したいとき

●コントロール・スイッチで

操作手順	
1	COAST側に回し続ける 
2	希望速度になったらコントロール・スイッチから手を離す

●ブレーキ・ペダルで

操作手順	
1	ブレーキ・ペダルを踏み、希望車速まで減速する
2	コントロール・スイッチをSET側に回す 

※約40km/h以下ではセットできません。

**メモリー作動表示灯が点灯しているとき**

コンピューターがオート・ドライブ走行車速を記憶していることを示します。

**オート・ドライブ状態を解除するとき**

メイン・スイッチをOFFにすればオート・ドライブの全作動を停止、解除できます。また次の場合は自動的に解除されます。

- ①ブレーキ・ペダルを踏んだとき
- ②クラッチ・ペダルを踏んだとき  
〈マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション車〉
- ③車速が約40km/h以下になったとき
- ④急な上り坂などで、セットしたときの車速より約16km/h以上速度が低下したとき
- ⑤ブレーキ警告灯が点灯したとき

**解除前の設定速度にもどしたいとき**

上記の①、②の方法で一度オート・ドライブが解除されても、メモリー作動表示灯が点灯中(車速が約40km/h以上)であればコントロール・スイッチをRESUME側に回すことにより、解除される前の設定速度まで自動的にもどり、その後定速走行を維持します。

なお、一度車速が約40km/h以下になると、コントロール・スイッチを操作しても解除前の設定車速にはもどりません。



ちよつと一言

走行中作動表示灯が点滅した場合は装置の異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。



注意!

1. オート・ドライブを使用しないときは、メイン・スイッチをOFFにしておいてください。
2. マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション車の場合、オート・ドライブ走行中クラッチ・ペダルを踏まずにチェンジ・レバーを④の位置にしないでください。
3. 下記のような道路状況では、オート・ドライブは使用しないでください。
  - 交通量の多い道路
  - 急な下り坂
  - 急カーブ
  - 凍結路
  - 積雪路
  - その他すべりやすい路面

スーパー・モニタリング・ディスプレイ(走行情報表示装置)

注文装備

スーパー・モニタリング・ディスプレイは、コンピューターと対話しながら情報やデータのやりとりができる装置です。

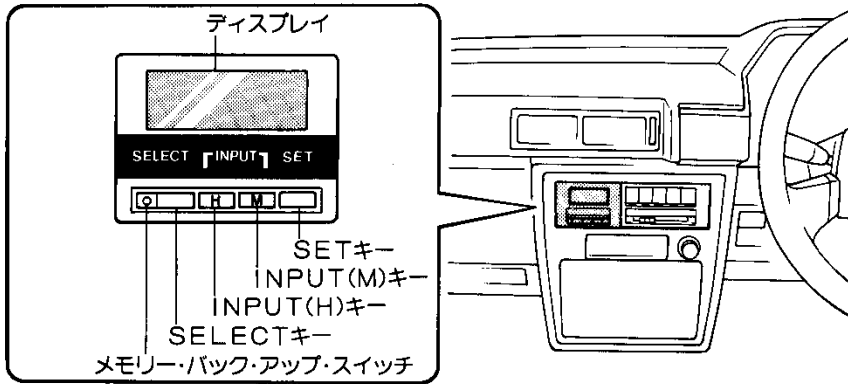
■ 知ることのできる情報とディスプレイ表示


提供する情報とそのディスプレイ表示は次表のとおりです。

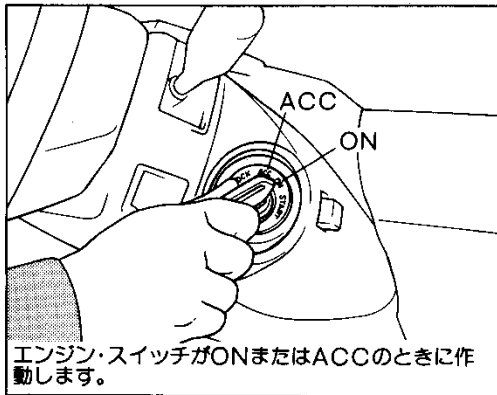
知ることのできる情報		ディスプレイの表示
1	時計として働きます。 (90ページを参照してください。)	10:21
2	カレンダーとして働きます。 (90ページを参照してください。)	5月14日
3	ストップ・ウォッチとして働きます。 (91ページを参照してください。)	タイカカン ↓ 13:24.5
4	燃料消費量を知ることができます。 (92ページを参照してください。)	330km ↓ 12.0
5	平均速度を知ることができます。 (92ページを参照してください。)	平均 ↓ 40km/h
6	エンジン・オイル交換後の走行距離を知ることができます。 (93ページを参照してください。)	エンジン ↓ オイル ↓ リセット ↓ 5000km

特別装備の使い方


■ディスプレイおよび操作部の名称と働き




名称	働き	名称	働き
ディスプレイ	各々の項目の情報を表示します。	SELECTキー	ディスプレイに表示したい項目を選ぶときに使用します。
INPUT(H)キー	1.“時”、“月”を入力するときに使用します。 2.ストップ・ウォッチを作動させるときに使用します。	SETキー	データを入力するとき、または記憶されているデータを変更するときに使用します。
INPUT(M)キー	1.“分”、“日”を入力するときに使用します。 2.ストップ・ウォッチを停止させるときに使用します。	メモリー・バック・アップ・スイッチ	バッテリーをはずしたとき、記憶されている情報を保存します。通常はONの位置にしておいてください。 ON OFF 

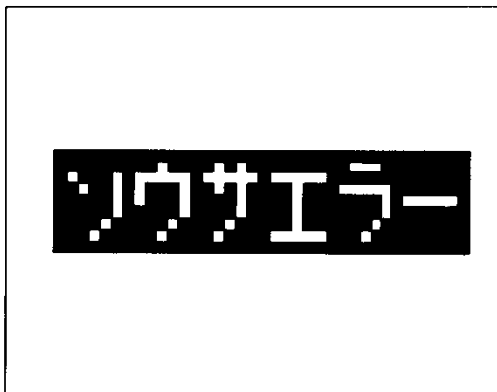


■スーパー・モニタリング・ディスプレイを作動させるには

 エンジンを止めて長時間ACCのままにしておくとコンピューターが作動し続け、バッテリーあがりの原因になります。

 走行中の入力(コンピューターに記憶させること)は、必ず助手席の人が行うようにしてください。



特別装備の使い方



エラー表示について














キーの操作を間違えた場合には、そのキーを押している間図のように表示されます。  
この場合、キーから手を離せばもとの表示にもどり、再びキー操作ができます。

**時計として利用するときは**

	操 作 キ ー	ディスプレイの表示
SELECTキーを時計表示になるまで押し続けます。 ● 1:00~12:59までの12時間表示を行います。	SELECT 	



**▶時刻を修正するときは**

(例:午前10時21分を午後6時45分に修正する場合)

	手 順	操 作 キ ー	ディスプレイの表示
1.手順1~2で時刻修正を受けつける状態にします。  2.手順3~5で正しい時間をセットします。 ●時刻を修正するときは24時間表示になります。	1	SELECT 	  12時間表示
	2	SET  「ヘンコウ?→ウケツケ」の表示が出るまで押し続けます。	 ↓  ↓ 
	3	R  “時”修正	  24時間表示になります。
	4	M  “分”修正	
	5	SET 	 ↓   12時間表示にもどります。

特別装備の使い方

**カレンダーとして利用するときは**

	操 作 キ ー	ディスプレイの表示
SELECTキーをカレンダー表示になるまで押し続けます。	SELECT 	

※日づけの修正方法は次ページを参照してください。

▶日づけを修正するときは

(例:5月14日を6月21日に修正する場合)

1.手順1～2で日づけ修正を受けつける状態にします。

2.手順3～5で正しい日づけをセットします。



「月」または「日」のいずれか片側でも修正できます。

手順	操作キー	ディスプレイの表示
1	SELECT 	5月14日
2	SET  「ヘンコウ?→ウケツケ」の表示が出るまで押し続けます。	ヘンコウ?
		ウケツケ
3	H  「月」修正	6月14日
4	M  「日」修正	6月21日
5	SET 	カリヨウ ↓ 6月21日

ストップ・ウォッチとして利用するときは

1.手順1～3でストップ・ウォッチが使用できます。

- 99時間59分50秒までの経過時間を表示し、それ以上になると0から再び計測を始めます。
- 経過時間が1時間を越えると「秒」表示は10秒単位で表示します。

2.ストップ・ウォッチの作動が停止しているときに手順4を行うと表示は0にもどります。




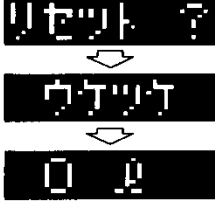




- ストップ・ウォッチ作動中に他の表示にかえてもストップ・ウォッチは作動しています。
- ストップ・ウォッチが停止しているとき、手順2を行えば再スタートします。
- ストップ・ウォッチを停止させた後、他の表示に切り替えても停止時の計測時間は保存されます。





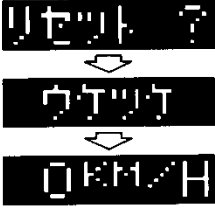

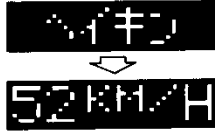
手順	操作キー	ディスプレイの表示
1	SELECT  「ケイカジカン」表示になるまで押し続けます。	ケイカジカン ↓ 0.00 分 秒(1秒単位)
2	H 	13:24.5 ↑ 点滅 時 分 秒(10秒単位) ストップ・ウォッチ作動開始
3	M 	13:30.3 ストップ・ウォッチ作動停止
4	SET 	0.00

特別装備の使い方


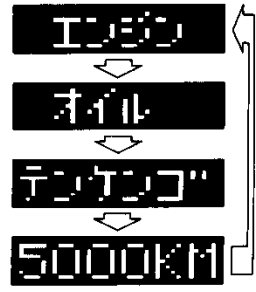

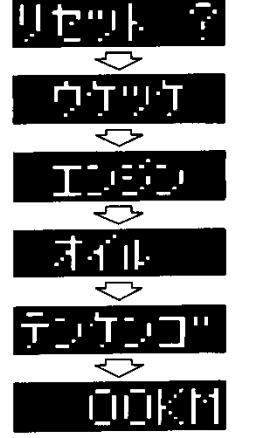
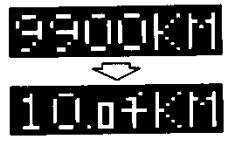

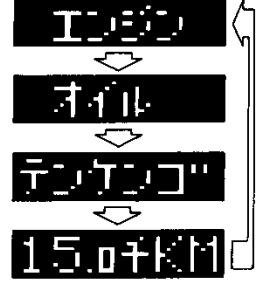
燃料消費量を知りたいときは

	手順	操作キー	ディスプレイの表示
1. 走行前に手順1～2で表示を0にします。  2. 走行後、手順3を行うと0にもどしてからの燃料消費量が表示されます。 ●表示は1ℓ単位で999ℓまで行き、それ以上になると0ℓから再び計測を始めます。	1	SELECT  「ショウヒ」表示になるまで押し続けます。	
	2	SET  「リセット?→ウケツケ」の表示が出るまで押し続けます。	
	3	SELECT  「ショウヒ」表示になるまで押し続けます。	

平均速度を知りたいときは

	手順	操作キー	ディスプレイの表示
1. 走行前に手順1～2で表示を0にします。  2. 走行後、手順3を行うと0にもどしてからの平均速度が表示されます。   0にもどしてから約3分間は0KM/H表示になります。 <small>ちよつと一言</small>	1	SELECT  「ヘイキン」表示になるまで押し続けます。	
	2	SET  「リセット?→ウケツケ」の表示が出るまで押し続けます。	
	3	SELECT  「ヘイキン」表示になるまで押し続けます。	

エンジン・オイル交換後の走行距離を知りたいときは

	手順	操作キー	ディスプレイの表示
<p>1. エンジン・オイルを交換したときに手順1～2で表示を0にします。</p>	1	<p>SELECT</p>  <p>「エンジン」表示になるまで押し続けます。</p>	
<p>2. 走行後、手順3を行うと0にもどしてからの走行距離を表示します。</p> <p>●表示は100km単位で行い、走行距離が9,999kmをこえると下図のように表示方法が変わります。</p>	2	<p>SET</p>  <p>「リセット?→ウケツケ」の表示が出るまで押し続けます。</p>	
 <p>100～9,900kmまでの表示</p> <p>10,000～99,900kmの表示</p>	3	<p>SELECT</p>  <p>「エンジン」表示になるまで押し続けます。</p>	 <p>3回繰り返して表示したあと、時計表示になります。</p>

特別装備の使い方

### 4輪ESC(4輪すべり制御装置)

グランデ(ツインカム24)のオートマチック・トランスミッション車に注文装備

4輪ESCは、急ブレーキをかけたときの車両の姿勢を安定させるとともに、ハンドルを効かせようとする装置です。

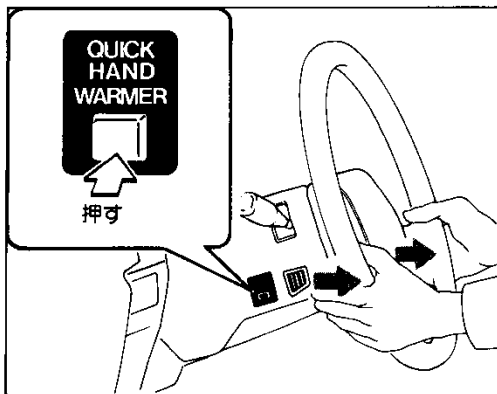
操作方法は普通のブレーキと同じですが下記のような特徴があります。

1. 4輪ESCが正常に作動しているときは車体などにわずかな振動を感じる場合があります。
2. ブレーキ・ペダルを踏んだままエンジンをかけるとブレーキ・ペダルが少し持ち上がる場合があります。
3. ブレーキ・ペダルを踏んだままエンジンを止めるとブレーキ・ペダルが少しは入り込む場合があります。
4. ブレーキ・ペダルを踏んだままハンドル操作を行うとブレーキ・ペダルに脈動を感じる場合があります。
5. 4輪ESCが故障した場合は普通のブレーキとして作動します。
6. エンジン・スイッチをONにすると約3秒後にエンジン・ルームから「カチカチ」とかすかな連続音がしますが、これは4輪ESCの作動をチェックしている音で異常ではありません。またブレーキ・ペダルを踏みながらエンジンを始動したときには、ブレーキ・ペダルから足を離した直後に連続音がします。



注意!

1. 4輪ESCがついていても急ブレーキをかけたとき(4輪ESC作動しているとき)のハンドルの効きかたは、ブレーキをかけていないときとは少し異なりますので、ハンドル操作には十分注意してください。
2. 4輪ESC付き車両の制動距離は、4輪ESCのついていない車両に比べわずかに短くなりますが、その差はわずかのため4輪ESCのついていない車両と同じように車間距離をとってください。
3. 悪路、ジャリ道、深い新雪などの路面では4輪ESCのついていない車両に比べて制動距離がのびる場合があります。このような路面では速度をひかえめにして運転してください。



### クイック・ハンド・ウォーマー(手元暖房装置)

グランデに注文装備(寒冷地仕様車には標準装備)

ハンドルをにぎっている手元を暖めることができます。

1. スイッチを押すと、温風が左右の吹き出し口から出て手元を暖めます。約6～7分間作動した後自動的に停止します。
2. 作動中に停止させたいときは、スイッチをもう一度押します。



注意!

1. 吹き出し口付近は、比較的高温になるため手などが直接触れないよう注意してください。とくにお子さまがさわることのないよう気をつけてください。
2. 消費電力が大きいため、不要な場合はスイッチをOFFにしてください。とくにアイドリング状態での連続使用は、バッテリーあがりの原因になります。